

## 入院による精密検査・専門的治療のご案内

当院では、医師が診察・検査内容に照らして医学的に必要と判断した場合に限り、1泊入院での対応をお勧めしております。

### ① 急性期における疼痛・神経症状の入院管理

脊椎・脊髄疾患に伴う急性期の強い疼痛や神経症状に対して、担当医師が入院による保存療法が必要と判断した場合に対応いたします。

#### 医師が入院適応と判断する主なケース

急性腰痛・下肢痛	安静保持と専門的な疼痛管理が必要と医師が判断した場合
頸椎症による上肢症状	神経症状（しびれ・脱力）の増悪リスクがあり、安静管理が必要と判断した場合
神経根症状の急性増悪	強い放散痛・神経障害に対して、専門的な保存療法が必要と判断した場合
脊柱管狭窄症の急性増悪	間欠性跛行・下肢症状の増悪に対して、緊急的な管理が必要と判断した場合

※ 入院の適応は、問診・神経学的診察・画像所見を総合した上で担当医師が医学的に判断いたします。

#### 入院中の主な管理内容

- バイタルサイン（血圧・脈拍・体温）の定期的モニタリング
- 神経症状（運動麻痺・感覚障害・疼痛）の経時的評価
- 安静度の管理と適切な体位指導
- 疼痛コントロール（担当医師の指示による）
- 翌日の診察による症状の再評価と治療方針の確認

## ② 精密検査の集中実施（診断的入院）

脊椎・脊髄疾患の正確な診断には、複数の専門的検査と丁寧な結果説明が必要です。担当医師が必要と判断した場合、以下の流れで1泊2日の診断的入院に対応しております。

### 【1泊入院をお勧めする理由】

検査当日（入院初日）は、MRI・CT・骨密度測定など必要な精密検査をすべて実施し、同日中に担当医師より検査結果および今後の治療方針について丁寧にご説明いたします。検査・説明にはまとまった時間を要するため、お帰りの際には十分にお身体を休めていただけるよう、病院にてご宿泊いただくことをお勧めしております。

また、入院中に病院の施設・療養環境・スタッフの対応を直接ご体験いただくことで、今後の治療（手術・入院加療等）をご検討いただく際の参考にいただければ幸いです。

### 入院中に実施する主な検査（担当医師が必要と判断したもの）

MRI・CT検査	脊椎・脊髄・椎間板・神経根の詳細な画像評価（基本検査）
骨密度・骨代謝検査	骨粗しょう症・代謝性骨疾患の評価（原則実施）
脊髄造影（ミエログラフィ）	必要と判断された場合に実施。造影剤使用後は一定時間の安静・経過観察が必要
術前全身評価	手術適応の検討に必要な場合、心肺機能・血液検査等の包括的評価を実施

※ 実施する検査は症状・病態に応じて担当医師が選択します。すべての検査を行うものではありません。

### 1泊2日の流れ（標準的な例）

#### 【入院1日目】

- 初診・問診・神経学的診察（担当医師による総合評価）
- 必要な精密検査を集中実施（MRI・CT・骨密度測定等）
- 担当医師による検査結果の説明および今後の治療方針のご説明
- 入院、ご夕食・安静療養（身体を十分にお休めいただきます）

### 【入院 2 日目（翌朝）】

- 起床後の体調確認・朝食
- 退院手続き・ご帰宅

※ 2 日目は検査・診察は原則ありません。ゆっくりとお身体を休めてからご帰宅いただけます。

## 入院に関する重要事項

### ■ 入院の適応判断について

入院の適応はすべて担当医師が診察・検査所見に基づき医学的に判断いたします。患者様のご希望のみによる入院はお受けできかねます。

### ■ 医療法・関係法令の遵守について

当院は医療法および関係諸法令を遵守した適切な入院管理を行っております。入院の必要性・内容については診療録に記録し、適正な医療を提供いたします。

### ■ 事前のご相談について

ご予約の際にお気軽にご相談ください。担当医師が診察を行った上で、入院の必要性を判断いたします。

ご不明な点は、外来受付またはお電話にて  
お気軽にお問い合わせください。